

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和年6度採択）

## 中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2024-2	平面交差点の安全性と円滑性を向上させる反転交差点についての技術研究開発	横浜国立大学 教授 田中 伸治	B
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>安全性と円滑性を向上させる新しい平面交差形式として反転交差点を提案し、その性能および効果を明らかにするとともに、導入の課題となる用地制約や社会的受容性についても評価を行い、実運用を見据えた導入指針を取りまとめる。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概ね順調に進捗しており、着実に知見が得られていると推察される。研究を進めるに当たり、ターゲットとする反転交差点の形式、指針で明確にすべき項目の具体化が望まれる。</li> <li>導入ありきの肯定的な影響だけでなく、我が国の都市構造や地理的条件も踏まえて、多様な観点から諸影響を整理いただきたい。</li> </ul> <p>&lt;今後の研究計画・方法への指摘事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>社会経済的な評価における都市活動への影響評価について、地価・人口・土地利用等による評価は、対象範囲、土地利用の機会費用の見積もり方、規制の影響、効果発現の時間的相違など複雑な要因が影響すると考えられる。よって、交差点形式による指標の比較については、結果のみならず、適する因果推論手法の検討、または比較の前提条件の検討など、評価の枠組みについてのガイドとなるような検討をお願いしたい。</li> <li>標識については、法定外も含めて直感的に分かりやすい表現を考究いただきたい。</li> <li>ラウンドアバウトと同様に、どれだけ認知されるか、導入空間の可能性があるか、が課題と考えるので、適用しやすい事例を類型化するなどの研究をすすめて指針にまとめていただきたい。</li> <li>研究内容は非常に多岐にわたり、丁寧な検討・分析が行われている一方で、各サブテーマの成果と最終成果物である導入指針との対応関係に不明確な点が見受けられるため、今後より明確に整理することが望まれる。</li> <li>今後は、本研究で得られた知見を学術論文等の形で体系的に整理・発信することにより、研究成果の蓄積・共有が一層進むことが期待される。道路管理者が活用可能な導入指針の素案の作成に当たっては、地方公共団体等の道路管理者が読んだ際に理解しやすいよう工夫するとともに、反転交差点を導入しよう考える道路管理者が関係者への説明・説得に活用できるよう、必要性・コスト・効果の部分の記載を充実させていただきたい。また、反転交差点を普及させていくためには、認知度の向上が必要であり、どのように広報・周知して普及・拡大をしていくかを見据えて、研究を実施していただきたい。</li> <li>とりまとめである導入指針の素案作成について、指針で示していくべき項目（適用、構造、効果、課題等・・・の詳細など）を整理した上で研究をすすめていただけると、より効果があがるのではないかと。また、指針でターゲットとする反転交差点の形式、および、形式ごとの適切な研究アプローチについても明確にして研究を進めるとよいのではないかと。</li> </ol>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第56回新道路技術会議において審議したものである。